

ロシア 東欧 経済速報

社団法人 ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215～9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月—1,500円 1年—18,000円]

1996年(平成8年)6月25日 No. 1026

目次

揺れ動くロシアの連邦制 ……………中居孝文	1
—連邦条約から権限分割条約へ—	
シリーズ ロシア大統領選を追う(13) ……………	11
キーパーソン……………	12
レベジ氏がエリツイン政権入り/コルジャコフ、ソスコヴェツらを電撃解任/ルシコフ・モスクワ市長が再選	
統計速報(1996年1～3月のC I S諸国の経済) ……………	14
C I S諸国通貨の最新為替レート……………	14

揺れ動くロシアの連邦制 —連邦条約から権限分割条約へ—

はじめに

大統領選直前の1996年5月から6月にかけて、ロシア連邦政府は次々に地方政府と「権限分割条約」を結んだ。さながら、それは締結ラッシュともいうべき様相をみせている。

もともと、権限分割条約はロシアの国家体制を護持するための切り札として現れた。事実、ロシア政府は、権限分割条約の締結によってタタールスタンなど分離傾向を強めていた民族共和国を連邦につなぎとめることに成功した。また、今回のチェチェン和平案でも権限分割条約は柱として打ち出されている。

だが、今回の締結ラッシュは、再選を目指すエリツイン大統領の地方取り込み策という見方が有力である。実際、地方指導者の多くはエリツイン支持になびいている。かつては、エリツイン大統領と対立していたタタールスタン共和国のシャイミエフ大統領やスヴェルドロフスク州のロッセリ知事も大統領選ではエリツインを支持すると表明した。

もともと、それが有権者の支持につながるとは限らない。実際、1996年6月16日のロシア大統領選挙第1回投票の結果では、大統領の地元スヴェルドロフスク州ではさすがにエリツインの得票率がジュガノフのそれを大きく上回ったものの、タタールスタンでは逆にジュガノフにリード